

科 目 名
薬理学Ⅱ（細胞分子薬理学） Pharmacology Ⅱ （Cell molecular Pharmacology）

3年 前後期 3単位 必修

徳富 直史・首藤 恵子（薬理学）
横溝 和美・周 建融（未病薬学）

概 要

医薬品の作用・副作用・毒性のしくみと臨床応用を学び、(1)薬の作用点（受容体、イオンチャンネル、担体、酵素）と作用機序、(2)薬の効果に影響を及ぼす因子、(3)習得した知識の医療現場における役立て方について説明できるようになることを目指す。

競技計画〈(テーマ：対応コアカリキュラム)・担当〉

1. 循環器作用薬1（強心作用のしくみと心不全治療薬：C13(2)-4-2、C14(1)-2-3）……………徳富
2. 循環器作用薬2（抗不整脈薬と虚血性心疾患治療薬：C13(2)-4-1、C14(1)-2-2,5）……………徳富
3. 循環器作用薬3（抗高血圧薬、末梢循環改善薬、昇圧薬：C13(2)-4-4、C14(1)-2-4）……………徳富
4. 腎機能調節薬（利尿薬の分類と作用機序：C13(3)-3-1、C14(3)-1-1）……………徳富
5. 泌尿器作用薬（排尿障害治療薬：C14(3)-1-1、-2-2）……………徳富
6. 物質代謝調節薬1（糖尿病治療薬：C13(3)-1-1~3、-5-1、C14(3)-5-1）……………徳富
7. 物質代謝調節薬2（高脂血症、高尿酸血症・痛風治療薬：C13(3)-5-2,3、C14(3)-5-2,3）……………徳富
8. 物質代謝調節薬3（Ca²⁺代謝調節・骨粗しょう症治療薬：C13(3)-5-4、C14(4)-5-2）……………徳富
9. 性ホルモンと甲状腺ホルモン（臨床応用と機能障害治療薬：C14(3)-2-2、4-2）……………徳富
10. オータコイド1（ヒスタミンとセロトニンの機能調節薬：C9(5)-2-4）……………徳富
11. オータコイド2（キニン系とエイコサノイドの機能調節薬：C9(5)-2-5）……………徳富
12. 医薬品の有害作用（副作用対策、薬物中毒の解毒薬：C13(4)-5、C14(4)-5-1,2）……………徳富
13. 抗感染症薬1（概論、抗生物質、抗菌薬：C14(5)-2-1~8、-2-11~12）……………横溝
14. 抗感染症薬2（抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬：C14(5)-2-9、-6-2、-4-1、5-1）……………横溝
15. 総合演習（中間試験）……………徳富
16. 皮膚・粘膜作用薬（褥瘡・皮膚潰瘍治療薬、角化症・乾癬治療薬：C14(4)-3-1~4）……………横溝
17. 抗悪性腫瘍薬（抗悪性腫瘍薬の分類と作用機序：C14(5)-8-1~7、-9-2）……………横溝
18. 呼吸器作用薬1（呼吸興奮・鎮静薬、鎮咳薬、去痰薬：C13(2)-5-1~2）……………周
19. 呼吸器作用薬2（気管支喘息の病態と抗喘息薬：C13(2)-5-3、C14(3)-3-2）……………周
20. 免疫系調節薬（免疫系の概要、免疫抑制薬、免疫強化薬：C10(1)-1~2、C10(2)-2-1）……………首藤
21. ビタミンの役割と臨床応用（ビタミン欠乏性疾患治療薬：C9(1)-4-1~3）……………首藤

授業方法

講義の形式で行い、適宜プリントや視聴覚教材を利用する。

評価方法

中間試験および定期試験の結果と授業態度から総合的に評価する。

教 材

教科書：重信弘毅、石井邦雄 編「パートナー薬理学」南江堂
参考書：田中千賀子、加藤隆一 編「NEW 薬理学」南江堂